



# 新型インフルエンザ 本格的な流行を迎えて

3月下旬に発生した新型インフルエンザの流行が我が国でも本格的に始まりました。就学前から高校生までの子供たちを中心に集団発生しています。この流行期に何をすべきかを考えてみましょう。

佐久総合病院 救命救急センター部長 岡田邦彦 医師

## 流行期の到来

新型インフルエンザの流行が本格的に始まりました。全国で10月19-25日の週に医療機関を受診した患者数は約114万人と推定されています。また、7月6日以降の累積患者数は約431万人とされています。佐久地域でも保育園や小中高校生を中心に受診する患者が増え、学級閉鎖・学年閉鎖をする学校が多数出ております。このように新型インフルエンザは子供たちを中心に強い感染力を持っています。



これまでに

(10月30日現在) 新型イン

フルエンザ関連の死亡は全国で40人が報告されています。入院する

割合は患者1000人に1人、死亡率は10万人に1

人と推定されています。これは従来のインフルエンザに比べても高い数字ではありません。必要時、タミフルやリレンザなどで早くから治療すれば決して怖い病気ではないようです。

## 感染の拡大防止が重要

これからは感染の拡大を防ぐ努力が大切です。発熱などでインフルエンザの可能性のある場合には早めに学校や職場を休む事が必要です。熱があるのに無理をして出かけないでください。熱が下がってもさらに2日間は外出を控えてください。この間は感染の可能性

があります。「咳エチケット」と言う言葉があります。これは、「咳やくしゃみをする際には、他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口や鼻をおおうようにする。またその際には人から少

し離れる。咳やくしゃみを押さえた手はよく洗う。咳やくしゃみが出る時にはマスクをする」と言う事です。マスクは自分を守るにも重要ですが、感染拡大を防止するためにも大切です。

## 重症患者を優先

11月9日より基礎疾患のある人の中でも、インフルエンザにかかると重症化する可能性のある人へ、新型インフルエンザ予防ワクチン接種が始まりました。今年のワクチン



ともと国内での供給量が絶対的に不足しており、とても希望者みんなというわけにはいきません。やはり、特に注意しなければならぬ人に絞り込んでうべきです。この事に関してはおかかりつけ医に相談して早めの対応をとってください。妊婦さんに関しては比較的

余裕がありそうです。しかし仮にワクチンがうてなくてインフルエンザにかかっても、ほとんどの場合タミフルやリレンザが効果的です。早めの受診すれば大丈夫です。

## 最後に

新型と言えど、インフルエンザである事には変わりありません。若い世代が多く感染しています。特に従来のインフルエンザに比べて重症患者が増えているわけでもありません。マスクや



手洗いを頻回に行い、無理をしない生活をおくる事。基礎疾患(いわゆる持病)がある方(特に小学校低学年くらいまでの子供たち)がインフルエンザにかかったかなと思ったら、早めの受診をすることが重要です。情報を上手に取り入れて、決して振り回されないようにしてください。かかりつけ医や保健所に相談されるのもよい対応法だと思います。みなで上手にこの冬を乗り切っていきましょう。